

資料 1

【ニューヨーク共同】
米映画監督スティーヴン・スピルバーグ氏
(65)＝写真、AP・共同
同氏が3日までに、読み書きに困難が伴うディスレクシア(読字障害)で少年期にいじめを受けた。



スピルバーグ氏 読字障害を公表

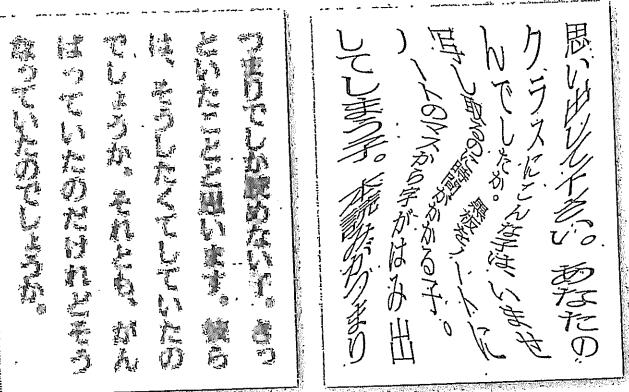
『映画が私を救つた』
「映画が私を救つた」と公表した。「映画が私を救つた」と述べ、製作活動を通じ、感じる必要のない恥じらいや罪の意識から救われたと説明。同じ障害のある人に「あなたは独りぼっちではない」と呼び掛けた。

学習障害のある若者が「謎が解けた」と振り向けるウェブサイト「フレンズ・オブ・クリエイツ」上で公表。読字障害について「あなたが思うよりよくある。一生付き合うものだが、対処の仕方はある。読解速度を上げる方法もある」と述べた。

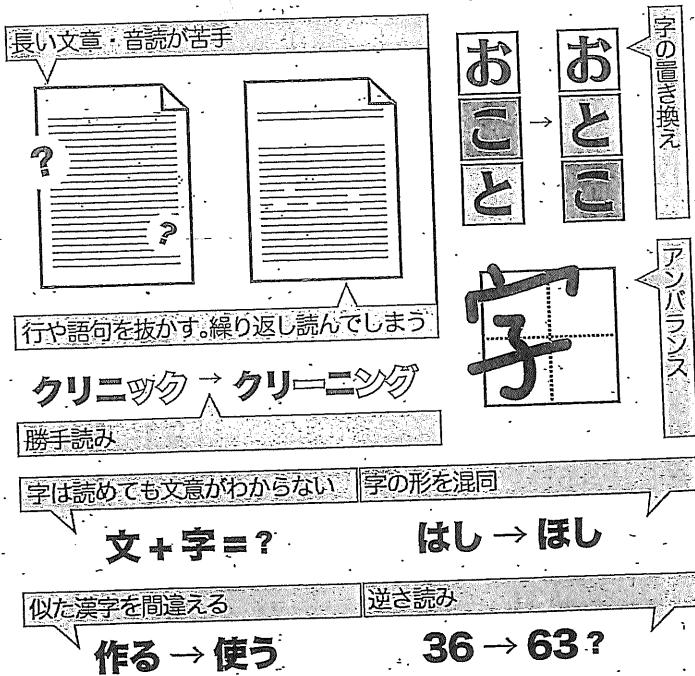
教室の前の前で教科書を読むのがつらかったと告白。当時は読字障害が知られておらず、特に中学で数多くのいじめを受け、支えられた。

スピルバーグ氏は映画「ジュラシック・パーク」「インディ・ジョーンズ」シリーズなどで知られる。

2012.10.5 日本新聞



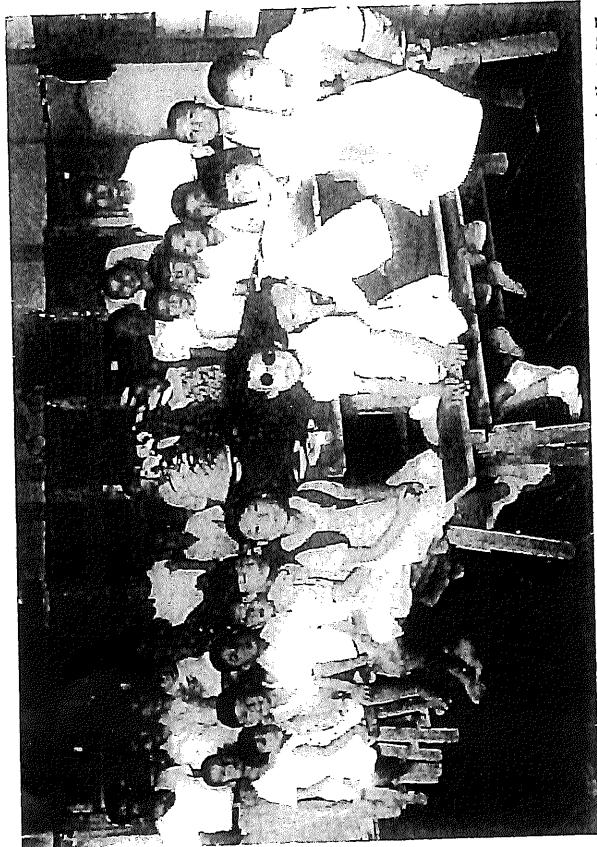
読字障害(ディスレクシア)の特徴は人それぞれ



(財)日本障害者リハビリテーション協会『「読める」ってたのしい。』から作成

徹子とトモ工学園

古い電車の車両を校舎にした学校だつていうから、私のほう
がうれしくなつちやつて。私がうれしいんだから、トットも
うれしいんだろうつて思ったわ。



黒いメガネの子の左隣が徹子さん。トモ工学園3年生のころ。
おかげの女の子が多かった中で、当時としては珍しく、横分け。
朝さん手作りの、ベスト付きのちゅうん袖ワンピースを着ています。

徹子の「ハドハ屋さん」事件

徹子 私もやがて大きくなつて、小学校に入学したのよね。でも、これは、『窓ぎわのトットちゃん』をお読みくださつたみなさんは、「こ存じの話だとは思うけれど、私、小学校を退学になつたのよね(笑)。

チヨンちゃん そうそう(笑)。

徹子 選学についていたって、義務教育なんだから、選学にしか受けないんだから、『選学です』って言われたわけじゃあないんでしょ? うむ。

「お宅のお嬢さんがいるし、クラスじゅうの迷惑になるから、もそに行つて
やらしたい」って、やんわりと。退学とは言つてになんけれど、まあ、退学して言つている
のと同じよねえ。徹子さんは、なんでも珍しくて、珍しい物を見つけると、夢中になつ
ちやう、そういう子だから。

徹子 一番最初に学校へ行つて目新しがつたのは、机よね。やつら、机の引を出しあはう、前に引き出すでしょ？ でも、当時の学校の机は、板の部分が上に開いて、中に教科書や、いろいろ入れるようになつてゐる。そういうのつて当時は町のあつかひ所にあつた「ヨリ舎」と同じなの、だからそれが珍しくておもしろくてね。

授業中に何百回とバタバタ開けたり閉めたりしたものだから、先生は目障りなわけ。「用がないときは開けたり閉めたりしてはいけません」って先生がおっしゃるのね。そうすると、私は何か用があればいいんだなって思うわけで。机の中へ道具を全部しまつちやつて。それで、先生が「まちア」を書き出す」っておっしゃるし、「バタン」って机を開けて、ノートだけ出すわけ。そして、次にまた「バタン」ってやって鉛筆を出す。アを書いたら、わざと消して書き直すために、また机を「バタン」ってやって消しゴムを出す、そして一度、全部しまつちやう。次のイのときは、またノート出して……って、ひとつひとつやるのね。

サヨウナラをうながす。それでやがて、彼のうかのがい黙つた。

徹子 そして、小学校の近くに、たまたまチンドン屋さんが来るじゃない？ そういうふうで、私はもう、授業なんてそっちのけ。窓から顔を出して、チンドン屋さんに声をかけるの。先生はちょっとびっくりなさうで、「黒柳さん、あたくしは今、何を言いました？」なんて私におっしゃるんだけれど、私はちゃんと聞いているから顔を外に向かたまま、「はい、先生は、今、こうてこうてこういうやうにおっしゃいました」って、一応、聞いてる(笑)。

先生にしてみれば、がわいくないでしょ？ 聞いていないんだつたら怒ることもできるけど、聞いているから困っちゃうわけ。そのうち、「チンドン屋さん！」って呼んで、近づいてくると、「来たわよ、来たわよ！」って大声出してみんなに教えるの。そうすると、クラスじゅうの子がワーッと窓のひとかたに来て、人垣ができちゃう。

私が「チンドン屋さん、お願ひします」って言うものだから、チンドン屋さんもそれで学校のそばだから静かに歩いてきたんだけど、リクエストだから「いいのかな」と思っているながら、チャチャーンカ、チャンチャラランってやるわけね。クラリネットやなんかで。昔のチンドン屋さんですから、チヨンマゲ結つた人やなんかが、太鼓もドンドンやつちやつて。私、もう、チンドン屋さん、大好きだったから。

先生は、もういやになつちゃうわね。ひととおり終わると、ほかの子たちは席に戻るんだけど、私は「まだ来るかもしれない」なんて言つて、窓から離れない。そんなことはつかりだつたものだから、しかたがないわね。でも、この話は、私はあんまりおぼえてなくて、ママが先生に言われた「ひせ」を、後年私に教えてくれたので、私、知ってるの。チヨッちゃん でも、私は悪いと思つていなかつたら、夢中になるのは当たり前だわ。規律を乱して、みんなに迷惑かけることがあつたかもしねなければ。

徹子 それで、ここからが、ママがすごいところなんだけど。先生に「迷惑だ」と言われたとき、同じような環境の学校に転校したとしても、また同じことがあつて、出されたとき、八方手を尽くして、自由が丘にあるトモ工学園を見つけてくれたの。しまうと思って、八方手を尽くして、自由が丘にあるトモ工学園を見つけてくれたの。あの当時、ママはいくつだつたの？ まだ25、26ぐらい？ それなのに、あんなに私にピッタリな学校、つまりは、ちょっと変わつてゐる子や、障害を持つてゐる子を受け入れて、いる学校を見つけてきて、入学させるなんて、すごいと思つたわ。子どもの個性を認め、その子の一番いいところを早く見つけて伸ばすといふ学校だつたのよね、校長先生がね。あそこに入れてくれて感謝してる。

チヨッちゃん そうそう。古い電車の車両を校舎にした学校だつていうから、私のほうがうれしくなつちゃつて。私がうれしいんだから、トシトおうれしいんだらうつて思つたわ。実際、トモ工の先生はみなさん素晴らしいくて、あなたはあの学校に行つて、本当に幸せだつたと思う。ただ、電車通学になつて、切符を買って、降りるときに切符を出すのがいやだつたと思う。いつも駅を降りるときに「切符を出すのがいやだ」「切符が欲しい」「だめなら私やでね。いつも駅を降りるときに「切符を出すのがいやだ」「切符が欲しい」「だめなら私は駅の人になりたい」つてひともんちやくあつて。あれにはまひつたけれどね(笑)。そ

いうふうに、一度興味を持つたらひつかつて、ゼッタイに引かない子だったわねえ。
徹子 もじ、もうひとつ、ママに感謝したいのが、最初の小学校を退学になつた的時候、
20歳くらいになるまですつと言わないでくれたこと。やつうだったら、次の学校に入学す
ることおに「あなた、あの学校を退学になつたんだから、今度の学校ではちゃんとやってく
れなきゃ困るわよー」と言つと思つ。

でも、ママは私に「退学」なんてひと言も言わなかつた。「新しい学校に行つてみない？」
つて言つてくれてね。だから、コンプレックスを持たずにするんだよね。もし、「あなたは退
学になつたのよ」と言つられてたら、おじいおじいながら生まる少女時代だつたと思うわ。
電車の教室を見ても楽しくなかつたと思う。でも、私はそんなことを知らないものだから
、「新しい学校にはチンドン屋さんが来るの？」なんてすぐ聞いたのよね。私が伸び伸び
と楽しく小学校時代を送れたのは、ママのおかげね。

チョッちゃん ホント、トモエは常に学校だつたものねえ。
徹子 私、トモエに行つていだときのママのお弁当をひがひが想ひ出すわ。あのころ、な
ぜかお弁当を逆さまにして、フタの上に乗せて食べるのが流行つていたのよ。大きいか
キみたいに。だから、みんなお母さんに、上下逆になるようにお弁当を作つてもらつた
りしたのよね。それがママすづこく上手で、底からおかずを入れて、逆さまにしだら
にしたのよ。それがママすづこく上手で、底からおかずを入れて、逆さまにしたのよ。
にした。すげーと思つたし、誇らしかつたわ。あんなの作るの、大変だつたんじゃない？

チョッちゃん そういうことが好きなのよ。何するんでも、だだやつらにはしないの。
徹子 でも、海のものと山のものを入れなくちゃいけないしな。これは校長先生のいい
つけて。上等じゃなくとも、山でどれたものと、海でどれたものを入れるようになつて。
ただ、私も変わつていただけれど、ママおちやつと変わつていただわよねえ。一度ママ、私にお
弁当を持たせるのを忘れたことがあつたでしょ？ そのとき、届けに来ててくれたんだ
けど、どこか喫茶店かなにかで買ったのかしら。サン代イチと、それとプリン！ トモ
エの電車の校舎の窓の外からノックして私を呼んで、渡してくれて。しかも、そのプリン
は、ガラスの脚がついている入れ物に入つていて。お店の器だつたのかしらね。プリンな
んで、当時は珍しい時代だつた。そういうところ、やっぱりほかのお母さんとは違つてい
たかもしれないわねえ(笑)。

સાંકેતિક માનવબિજ્ઞાન

ପ୍ରମାଣିତ କାନ୍ତିକା



ハサキナミ